

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームタンポポ(さくら)	評価実施年月日	平成19年10月31日
評価実施構成員氏名	川口 保 多田 早苗 林 誓子 北野 勘一 三上 知義		
記録者氏名	三上 知義	記録年月日	平成19年11月9日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>1. 施設の設置環境が郊外のため、地域住民との交流に困難性があるが、各種のボランティアの招待などを行ったり、地域町内会との交流を促進するため町会役員に働きかけている。</p> <p>2. 家族や地域の人達との交流を基本理念としている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎日のミーティング、毎月行っているユニット会議において、施設の理念を確認し合い、管理者と職員が共有するよう努めている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族会を年間3回程度、地域民生委員等を含めた運営委員会の開催を通じて、認知症に対する理解を深めていただくと共に、施設の理念を説明している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>民家から離れているため、近隣との交流が困難であるが、定期的に訪問されるボランティアの人達との交流があり、誰でもが、気軽に立ち寄ることのできるような施設づくりに努めている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の行事に対する参加、協力を行うと共に、地域からの要請、要望には積極的に応じることにしている。</p>	
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>施設が宗教法人であるため、福祉に対する理解が深く、地域の高齢者に対する相談や、介護や介助に対する助言、指導など積極的に行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>毎年の自己評価、外部評価を検討しながら、介護の質の向上を図るため、評価項目の中から関係ある項目を抜き出して、職員がそれぞれ自己評価するなど、活用を図っている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議の充実を図るため努力しているが、委員からの意見などがまだ少ないこと、認知症に対する理解不足もあって取り組みは不十分である。</p>	<p>運営推進会議の中で、委員の理解を深めると共に、気軽に意見を出せるよう努力をしたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>日常的に市の担当者と連携しながら、グループホーム協議会を作り情報交換を行うと共に質の向上に努めている。 オレンジメイト講師派遣や介護予防フェアへの参画を行っている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>家族会等において後見制度について説明を行っており、今年度1件の実施を見たところである。 今後も運営推進会議等において周知のこととしている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止マニュアルを作成するとともに、ミーティングや研修会議等を利用し、積極的な指導を行っている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居に関する説明を十分行うと共に、家族の疑問点には利用者の暮らしを見ていただきながら理解を深めていただくこととしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族との対話を深めて意見を聞いたり、家族会議で意見を求めながら、運営に活かしている。 利用者が望んでいる事柄が、何かを理解できるように、職員の指導訓練を行っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族会議で現状の報告を行うと共に、金銭管理については毎月末で家族に報告を行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見は管理者の打合せ等で十分論議を行い、参考になる点は運営に生かしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや打合せ会等で出された職員の意見等は十分運営に生かしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の体調変化等に伴う職員の勤務変更、又は調整については十分対応できるよう職員を確保している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の長期雇用については、平素から十分配慮しているが、利用者の重度化に伴い介護度も高まり、体調を崩して退職する者が多く、その対策に苦慮している。		新規採用者に対する訓練を十分行うと共に、各種研修会等訓練に参加させて技術の高上を図ることとする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新規採用者の訓練マニュアルを作り、実習と合わせて十分な動機づけを行うと共に、現任者の訓練にも配慮している。</p>	<p>外部の各種研修には、業務の運行に支障ない限り参加させたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市内外のグループホームと連携し、職員の相互研修を行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>年間数回全職員の参加を求めて懇親の場を作り、管理者と職員の交流を図っている。</p>	<p>管理者からの声かけを多くして、職員の問題意識を共有できる体制を作りたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>勤務の評価を行い、個々の職員が意欲を持って働けるような勤務形態を作っている。開設記念日などに、優良職員の表彰などを行い、職員の向上心を育てている。</p>	<p>向上心を持たせるためには、職員に向けて将来への展望を示すことが必要であり、今後指導要領等を作成のこととする。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談に訪れた入居希望者に対し、(家族の場合が多い)十分理解できるように説明し、本人の状況を聞き取っている。入居者の様々な表情から、本人の考え方、望みなどを読み取ることとしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族からは本人の状況を十分聞くと共に、施設の居室や生活状況を見学していたり、理解してから入居へと働きかけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	居室に空きが無い時の相談には、状況を聞きながら他の施設への紹介等、対応に努めている。 入居希望者が、認知症の認定を受けていない場合が多いので、病院等の紹介を行っている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居当時は雰囲気に馴れるまで、家族に毎日来ていただいたり、他の入居者との関係を重視した対応を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	普段の声かけを中心に、一緒に掃除をしたり食後の片付けなどをしながら入居者の話を聞いたりするようにしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の悩みなどを聞きながら、入居者本人のためにお互い何ができるかを考えるようにしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者の高齢化と、重度化に伴い、家族との関係が希薄になることが多く、これからの課題として考える必要がある。		家族との対話を深めながら、入居者本人の状況を理解していただき、良好な関係を築けるよう努力したい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族を通じて本人の友人知人に訪問していただくようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係には十分配慮しており、全員が仲良く生活の場で過ごせるようにしている。		新規の入居者が馴れるまで時間が必要であり、利用者同志の関係を作るのは難しいが、全員が共通した取組みを行う必要があるので、研修の場で討議したい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	体調の変化等により入院、退所の後も、訪問したり家族からの相談に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりの趣味や関心を調べたり、家族から以前の生活の状況を聞きながら把握に努めている。		意志の表出できない入居者はどうするかを、全職員で考える必要があるため、ミーティングや業研で検討したい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に十分生活歴や情報を集取しているが、本人との生活の中からも把握するよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	それぞれの心身状況を観察しながら、本人に合わせた運動や作業を行わせるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は本人の心身状態を全職員で考えながら、計画作成担当者が取りまとめ作成し、ケアマネジャーがチェックを行い作成している。		ケアプラン作成の職員体制の確立に努めなければならないので、研修等で指導したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的には6ヶ月毎に、重度化による変化がある場合はその都度計画を見直すこととしており、家族との対話も入れながら作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録を重要視して指導を行い、毎日のミーティングで情報を交換しながら介護計画作成に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			現在事業の展開を行っていないが、実施の場合は十分対応のこととしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域民生委員との連携を図ると共に、ボランティアの受入れ、消防署からの支援を得て消火訓練と講習などを行っている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現在までのところ他のサービスは利用していないが、今後必要があれば支援して行くこととしたい。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	機会ある毎に支援センターとの意見交換を行い、施設全般に渡る指導を得ている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	契約医院から月2度の往診を得ると共に、契約により月2度の訪問看護を受け、日常の健康管理や医療の支援を得ている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当初からのかかりつけ医師と連携を取りながら、定期的に診療を受けさせている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	契約による訪問看護ステーションと連携を密にして、定期の訪問看護以外にも必要の都度要請しながら、健康管理に配慮している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	疾病により入院した場合は、早期の帰所を医師に伝えると共に、時には馴れ親んでいる職員を病院に派遣するなどして連携協力している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	開設以来の入居者や、高齢入居者が重度化や老衰により体調を崩した場合などは、家族と十分話し合うと共に、医師からの情報を家族と共有し、「重度生活支援に関する方針」に基づき支援のこととする。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化が進んでいる入居者に対する介護は、職員全員が共通の認識を持ち、医師や看護師の指示を得て適切な対応を行うため、マニュアルを作成し職員の指導を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居者の大部分は、自宅からと病院からであるため、今まで住み馴れた雰囲気を少しでも出せるよう、家族や関係者から情報を得て対応している。 他の施設から入所する場合や、他の施設に移動するときは、今までの情報を十分理解できるよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者のプライバシーには十分配慮し、言葉遣いや行動に注意すると共に、記録の取扱い等に十分注意している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者の重度化により、自己決定が困難になったり表現ができない場合が多くなっているため、職員から示唆を与えながら思いを出させるように努めている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員の勤務行程に合わせることをないよう、利用者の気持ちを聞きながら支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>季節に合った身だしなみに心がけると共に、家族と意見を交わしながら、理容、美容の援助をしている。 女性入居者には特に美容に気を遣い、化粧など介助することとしている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事時の声かけに注意し、明るい雰囲気の中で楽しく食事ができるよう努めている。 又後片付けも一緒に行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好については家族とも相談しながら、適切に楽しめるよう配慮している。		個人別におやつを出すと、差別をすると苦情が出るので、おやつは同じ物を出しているが、今後の課題として研究のこととする。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の介助は特に注意して支援しており、自立して排泄ができるよう努力させている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は本人の希望を中心に行っているが、長期間好まない入居者もいるため、時間をかけて説得する場合もある。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜が逆転する場合は、昼間の運動等に配慮し、夜間の安眠を図るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者個々の生活歴や好み等を調べながら、その人に合った役割りを与えたり、気晴らしの支援をしている。時々ドライブ、買物などに行っている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者のお金の所持は自由にしているが、自己判断で買物が出来る者は少なく、家族の理解を得て職員が指導支援している。サイフはそれぞれ持たせている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外の気温や天候によっては、希望者を連れて戸外へ散歩に出かけることとしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節により花見やりんご狩りなど、家族会にも呼びかけて実施している。個別に希望のあるときは、職員と外出させている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族や知人の面会時に電話や手紙をお願いしたり、帰ると言う希望の強い時など、家族に電話で声を聞かせていただくなど努めている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室、リビングなど自由に使用していただき、子供さん達を連れて来てくださるようお願いしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は禁止しており、現在まで行っていないが、引続き職員の指導を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には鍵をかける設備はない。 玄関は夜間以外施錠はしていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の徘徊には十分注意しながら、個々人の動向と所在の確認を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な個所の点検と、刃物などの保管には十分注意している。注意すべき物品の整理、整頓を心がけるよう指導している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のためのマニュアルを作成すると共に、設備や居室での家具調度品などの点検を行い事故の未然防止を図っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	入居者の急変には、マニュアルを作成し、直ちに対応するよう備えると共に、初期対応についての訓練を受けさせるように努めている。救急救命講座は全職員が受講済である。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時マニュアルによって、対応できるよう職員の指導を行っているが、更に万全を期すよう努力したい。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	重度化している入居者には何が起こるか分からないので、家族には十分説明し理解を求めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材の確保については十分配慮しており、保管管理については特に注意をしている。</p> <p>調理場、用具等の衛生管理は十分注意し指導している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前は広く、建物横に広い駐車スペースを取り、何時でも誰でもが気楽に立寄れる雰囲気を作っている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングは南向きに全面ガラスで明るく、各居室の窓は大きく、浴室もトイレも広めにし、快適な暮らしができるよう工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>玄関ロビー、応接室、事務室など戸を取り払い、広い空間を確保すると共に、誰でもが自由に出入りができるようにした。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は入居者が自分の城となるよう、家族と相談しながら自分のタンスなど入れて、落着かせている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>空調機の点検は常時行ないながら気温に合わせた調整を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		



. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>新規採用者には、利用者との良好な関係作りを第一に指導している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>重度化に伴い、少しでも多くの時間利用者と接することに心がけている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>重度化で単独歩行が困難になっている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>新しい利用者の場合、信頼関係が出来るまで時間が必要である。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	定期的なボランティアなど、部外者の来訪がある。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	オレンジメイトの養成講座の実施等で理解者が増加している。
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	介護労力の増加により、体調を崩す職員もあり、介護技術の向上を図りたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	帰宅願望者が数名おり、時々不穏となることあり。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

開設5周年を迎え、グループホームとしての介護技術が向上したと思うが、利用者の重度化が進み介護の内容に変化が要求されることとなった。  
 今後は、重度生活支援に関するマニュアルの指導と訓練を行い、ターミナルケアの実行に向けた取り組みをしたい。